

2009フランス遠征の感想

関根 悠人

フランスの人は体格に恵まれていました。

背は高く、足も速くて、体も強かったです。

だから、日本の人と同じようにやっていると簡単に抜かれたり、止められたりしました。

1対1ではなかなか勝てませんでした。

だけど、全員がボールを持っている人のフォローに行くと早くボールを回して数的優位を作れば突破できます。

つらい時ちゃんとフォローに行く。

井村 秀行

ぼくは、フランス行って色々な経験をしました。

フランス人コーチに練習を教えてもらいました。フランス人コーチの練習は、日本と同じだが、求めているものが違いました。パスを出すスピードの違い、常に速いパスでプレッシャーに行く時も全力でした。それを踏まえてフランス人と試合をしました。だが、パスが速く相手からなかなかボールが取れませんでした。ボールを取っても相手のプレッシャーが速く攻撃するのが難しかったです。

観光では、エッフェル塔や凱旋門など有名な物を見ました。フランスの文化がわかりました。このフランス遠征はぼくにとって中学最後の遠征です。フランスで経験したことは、高校になっても生かして行きたいです。

沢辺 翔太

今回のフランス遠征で色々な事を学びました。

まず、サッカーの面ではフランス人コーチがオフサイドなどのサッカーの基本をしっかりとっていて発言が大切だとも言っていました。そして、生活の面では早く寝て！早く起きる！とか、部屋のドアのカギはしっかり閉めるとか、人に会ったら『ボンジュール』と言うとか、そうゆう挨拶の面でも言われました。

サッカーが始まる時は『ボンジュール』

終わったら『メルスィー』と言う事も学びました。

食事は、食わず嫌いはせず何でも食べて、最初は食べられる分だけ取ってきて、まだ食べられるなら取ってくるようにする！など、残さないなどの基本ルールでした。

フランスの観光では、何処から何処までの間で何時に帰ってくれば良いと決められているけど、その間は自由行動だったりして楽しかった。

そして、フランスの代表戦は、もの凄くいい席でいい試合を観られて良かった。

今回のフランス遠征は、一生に一度の良い思い出になったと思った。

三村 成将

フランスでの練習は、フランス人コーチの指導で、言語の違いで伝わりが悪く、最初は困ったけど、太田さんのおかげで、後から段々と出来た。

観光は、建物が日本とは違った。文化の違いを感じた。街を歩くと、外人ばかりで『外国に来たんだな』と思い少し恐かった。道はレンガでできている所が多くあって車酔いが少し大変だった。食事はやっぱり日本が美味しい！

エスカルゴは、気持ち悪かったが、タコの食感でまあまあだった。

試合では、相手は背も高く個人技術の高さや、ボール保持が上手くて強かった。結果として、1点入れられて良かったと思います。普通じゃできない体験などで、楽しかった。

この1週間がとても重みのある1週間だと思います。

小嶺 雄輝

初日、まず八王子からバスで移動の時から楽しみでした。そして飛行機内では、だんだんと楽しみから、緊張へと変わっていきました。でも正直フランスに着いた時あまり『フランスに来た！』という実感がありませんでした。でも、シャルトルの宿舎に向かう途中、車が右側通行だったり、左ハンドルばかりや、看板に日本語が書いてない！などで、やっぱりフランスに来たんだ！と思いました。そして宿舎に着いて部屋に入ると思ったより広くビックリしました。でも1つ嫌な事がありました。それは土足で入ることです。やはり慣れていないのでちょっと変でした。あと、夕飯の米に似たやつが俺にはキツかったです。

2日目、午前中はトレーニングでグランドに行って見て『凄い！本当に天芝だ！』と思い嬉しかったです。でも、グランドはボコボコでちょっとやりずらかった。そして、午後、始めは大聖堂まで歩いて見学をして宿舎に戻り少し休んでから試合でした。相手選手を見てがたいが良いとまず思いました。そして握手をする時に相手のキーパーを見たらピアスをしていたので、ここでもビックリしました。そして試合が始まりました。3本やった中、初めは皆疲れもあり最悪でした。でも、やって行くうちに直ってきてだんだん良くなってよかったです。でも、自分は課題がたくさん残る試合になりました。

3日目、午前中の市内観光は、いろんな所に行ったので各観光場所での観光時間が短かったけどたくさん場所が見られて良かった。昼食はエスカルゴで初めて食べたのでなんか楽しみでした。食べてみると美味しかったのでまたいつか何処かで食べたいです。夕飯は久しぶりの和食でした。しかも、日本代表もよく来る店というので、すごくドキドキでした。料理はハンバーグでそれを食べながら『ここは誰が座ったのだろうか？』と思いながら食べていました。夜は、フランス代表の試合を見に行きました。観客数はなんと！！7万8千人というもの凄い人でした。日本はここまで入らないよ！とも思いました。その試合では学ぶ事がたくさんあり良い勉強になったと思います。

4日目、リヨンとの練習試合。グランドは天芝でボコボコではなかったけどゴール前が凄く荒れていて木屑みたいなので補強されてあったので、少し柔らかく踏ん張りにくかった。しかも、試合はテレビ放送される！と言ってカメラマンが来たので全員いつもよりやる気

がありました。この日も3本やったけど最後はくたくたで大変でした。昨日のフランス代表みたいにショートでしっかりつないでいけるようリスタートを早くと頭に入れて試合をやっていました。自分的には3本目が1番良かったと思います。

5日目、午前中はサンティティエンヌのホームスタジアム内の見学で松井選手のロッカールームを見る事ができ、しかもグラウンドの端ではあるけど芝の上に立たせてくれました。将来、こういうグラウンドに立てるように頑張っていきたいです。午後は人工芝のグラウンドで練習。ダイレクトパスを中心にやりました。

6日目、最終日、移動しながら今日でフランス最後かと思いなんかちょっと淋しくなりました。そして、日本に着いて和仁コーチの運転で八王子に戻り解散。疲れたけど、それ以上にいい勉強になり、いい思い出になりました。

久保田 惇

今回のフランス遠征で一番自分の肌で感じたことは、日本とフランス（外国）との『違い』です。文化での『違い』は個人個人の人と接する機会が日本と比べて多いと言うことです。これはフランス人だけなのかもしれないのですが、近くにいた他人とも初めて会ったのに良く話したり、笑いあったりする。こんな事は、消極的と言われる日本人には全くない文化だと自分では思っています。もしかしたら、こういう事からもサッカーの強さの違いが出ているのではないかと考えてしまいました。

サッカーでの日本と外国との『違い』は、まずはパワー、スピード、そのスピードを持続させるスタミナなど、こういう所の『違い』をまず感じさせられました。このような身体的な面で一つだけ通用すると感じた事は瞬発力です。ボールに対する瞬間的な反応やドリブルで、一歩先に出るという事では外国人にも勝てるかもしれないので次に試合で外国人と戦った時は、相手の裏へ抜ける一瞬のスピードやドリブルでは緩急を使った突破を上手く使って戦いたいです。また、フランスの上手いと日本の上手いの『違い』も分かりました。日本ではスピードがあって個人能力が高く、目立つ人を上手いと言いますが、フランスでは相手に正確に速いボールを送れて、どんなボールをもしっかりと止める事ができるという事を教わりその事もよく身をもって分かりました。特にリオンは、今のウエストがやっていることの完成したようなチームだと思います。正確で速いパスをまわして、常にボールを動かす、守備でもコミュニケーションをとり組織的に守備する、とてもいいチームだと思います。今回遠征で戦う事ができたシャルトル、リオンはいずれも素晴らしいチームだと思います。この経験を生かして、自分達も能力を上げていきたいと思っています。この経験を生かして自分達も能力を上げていきたいと思っています。そして、次に戦った時は絶対に勝てるよう今回の遠征を役立てて、日々の練習から意識していきたいと思っています。

藤田 泰斗

自分は、フランスに行って多くの事を学び多くの事におどろいた。まず、文化の違いを凄く感じた。ご飯の事だったり社会ルールの事だったり日本と違う点が多かった。

サッカーの事では一番コンディショニングが大事だとわかった。自分の体調の管理もサッカー選手の第一歩だと思った。そして、試合では、自分達より身体能力の高いフランス人と戦う中で課題が見つかり、試合中に課題に挑戦する事ができた。でも、成功して続けていると相手はそれに引っかからないようにしてきたので、また課題が見つかった。この遠征では凄く考えるサッカーが大事だと感じた。

フランス遠征で一生に一度体験できるか、できないか、の貴重な体験をしたので、その経験を日本で生かしてより高いレベルで考えるサッカーをしていきたい。

近本 義阿

成田からパリに行くまでの間、足を伸ばしたりした。最初のトレーニングはパスの強さ、トップの動き方をやった。ウエストでやっている練習とわからなくなった。トラップミスが多い時があったけど、練習の後半でトラップミスがなくなった。シャルトルと試合をしてボランチだった。相手の寄りが速くてあわててパスミスをしてしまった。サイドから抜かれてクロスをあげられたりしたから、足の速い人への対応を良くしたい。後半はパスがつながってチャンスがあった。自分は攻撃参加が遅かったから早くしたい。3本目はしっかり戦えて自分もパスミスが少なくなった。次の日は観光だった。海外は初めてだったので時差ボケなどがよくわからなかったけど、よくわかった。エッフェル塔は、凄い迫力でビックリした。晩御飯に前山に行ってハンバーグなどを食べた。凄く美味しかった。

フランス対リトアニアの試合を見に行ってフランスの有名な選手を生で見れたから良かった。日本とは違う空気のスタジアムでアウェイのチームがかわいそうだ、と思った。1-0でフランスが勝った。フランスが引き分けたり、負けたりしたらどうなっているのだろうと思うと恐くなった。次の日はリヨンと試合をした。テレビカメラが来ていたから凄いとおもった。シャルトルよりもパス回し攻撃のしかたが上手いと思った。自分はシャルトルとの試合より落ち着いてパスが出来た。ディフェンスが上手くできなくて失点をしてしまった。パススピードが遅いとインターセプトせれてしまうので、スピードをつけるようにパスをした。相手は背も高くジャンプ力が凄かったから空中では勝てないからパスをつなげようとしても結局ボールを浮かしてカットされてしまう時があったからペナルティエリアの近くまで浮かさないパスをしなければいけなかったからきつかった。点を取れなかったから自分をもっと攻撃参加をすればよかった。ニア、ファーの入り方が良くなったから良かった。試合をしてパスがつながってゴールに結びついたから良かった。TGVに乗って飛行機に乗って、海外へ行って日本と違う文化に触れて良かった。

佐藤 叶登

僕は、フランス行きが決まってから、何か一つは絶対吸収して行きたいし、そのためにベストな状態で取り組めるよう体調管理をしていきたいと思いました。フランスに着くと自然が多くて、町並みも綺麗で『いいな～ここは』と思いました。しかし、フランス人は日本人にとってあまりやらない行動をいくつもとっていました。まずは、『信号無視！』これは何処の町に行ってもあたりまえでした。次に、『席取り』サッカーのスタジアムの所でも、普通に座っている人もいたし、他にも、電車の中、挙句の果てには飛行機の中でもやっている人がいました。サッカーでも『フランスでは、日本と違ってパスが上手に出せる人が上手いと言われる』と聞いたので、やっぱり、日本とフランスの違いはあるなと思いました。

サッカーでは、基本的な技術の練習をしました。少しメニューが違う所もあったけど、ほとんどが普通の練習と同じようなメニューだったので正直やりやすかったです。言われる事も基本的な事は、いつもと同じで基本の事は世界共通なんだと実感しました。

フランスのチームとの試合では、やはり負けてしまいましたが、しっかりと、ミスをしないうで落ち着いてやれば勝てない相手でもなかったなので、またやってみたいと思いました。しかし、最初から気持ちが入っていたわけでもなく、試合の途中から入っていったので、その事なども僕の課題だとおもいました。

でも、こんなに体験できたのも、すべては僕たちをサポートし続けてきた色々な人のおかげなので、しっかりその人達に感謝し、フランスに行った事が無駄にならないようにこれからもフランスで見つけた良い点、自分の課題、などを日本でも出来るようにしていきたいと思いました。

山本 宇哉

フランス遠征に行く前から本当にたくさんの準備があり大変でしたが、そのお陰か非常に充実した楽しいフランス遠征になりました。生まれて初めてフランスに行ってまず思った事は楽しみという気持ちと同時に言葉が伝わらない、食事、生活などの不安もありました。けれど、案外言葉は片言のフランス語とジェスチャーなどを使ったら通じて、相手に伝わった時とても嬉しかったです。食事は初めの頃はほとんどの物にやはり少し違和感があり、日本と同じものでも少し味が違うような気がしましたが3、4日目以降になるとフランスの食事にもなれてきました。食べ物で一番驚いたのはエスカルゴです。フランスに行く前から、かたつむりを食べているのについてはかなり抵抗があり、食べる前から不安でしたが、実際に目の前にエスカルゴに乗った皿が来ると見た目は貝のような感じで、香ばしい香りがしてとてもおいしそうに思えたので一口食べて見たら案外美味しくて正直凄くおどろきました。日本でもサイゼリアにエスカルゴ料理があると聞いたので今度機会があれば又食べてみたいと思いました。生活の面ではフランスに来てしばらくは時差ボケで、昼間眠くて、夜眠れない、という生活が大変でフランス代表戦を見に行く途中のバスで眠すぎ

て、フランス代表戦をまともに見られないかもしれないと思っていました。しかし、スタジアムの中に入るともの凄く興奮して眠気もスッキリ取れて、それくらい凄い熱気で本当に凄く楽しかったです。何より応援する時に観客のほとんどがフランス代表のサポーターで、ゴールに近づいた時の歓声が J リーグよりも何倍も迫力のあるもので、さらに自分達の座っている場所がグラウンドに最も近い最前列の方だったので、間近で見るフランス代表戦は迫力があり、一生の思い出になりました。

フランスのチームとの対抗試合で 2 チーム戦って思った事は、やっぱりフランス人は日本人よりはるかにでかく、足も速く、もの凄く苦戦しました。だからこそ、正確なパス回しをしながらボールを簡単に失わないように行った方が良いと思いました。相手は、体が強い上にパス回しも上手く、取る所で取らないと一気に攻められてゴールまで行かれるので、プレッシャーの早さ、連係、厳しさが欠けていて相手に攻められる事が何度もありましたが、グラウンドの真ん中付近に敵が攻めて来た時にコミュニケーションをとって、相手からボールを取ったり、相手からボールを奪った後すぐに攻撃に繋げる事が出来たのでその所は良かったとおもいます。

フランス遠征全体を振り返ってとても充実した経験を積む事ができたので、この事を将来に繋げていけたら良いと思っています。

松村 亮汰

1 日目は、12 時間という長い間の飛行機での移動だったけれど、2～3 時間おきにトイレへ行くなどと動いてエコノミー症候群にもならず良かった。

2 日目は、仏人コーチのトレーニング、午後にはシャルトルとの試合をした。トレーニングでは皆消極的になってしまい求められている事は日本と変わらないのに上手く出来なかった。試合では 2-4 と負けてしまったが、内容は 1 本目よりも 2 本目、2 本目よりも 3 本目とだんだん良くなっていく事が出来た。

3 日目は、観光でフランスの文化との交流や買い物をした。最後にフランス代表対リトアニア代表の試合も見て、日本との雰囲気の違いや選手との近さを実感出来た。

4 日目は、リヨンへの移動の後、リヨンと試合をした。最後の 1 本でラインの統一を意識出来たが、相手がオフサイドへの対応をした時にそれへの対応を自分は出来なかったのもっと試合中に改善すべき事は改善出来る様にする。

5 日目は、スタジアム見学、サポーターショップでの買い物、松井選手との交流会、仏人コーチの最後のトレーニングがあった。松井選手との交流会では突然あてられたけど、質問も出来てとても良い経験になった。最後のトレーニングでも、皆どこか消極的になってしまった。

6 日目、7 日目は移動だけで疲れた。

このフランス遠征では、フランス人選手との交流、フランスの文化との交流と、とても良い経験が出来た。特に、フランス人選手との試合での経験を今後にも繋げていきたい。

塩谷 真央

フランスは楽しかったです。観光は優秀なガイドさんや、通訳さんがいて道に迷ったり名前がわからないなんて事もなくて、楽しく過ごす事ができました。

試合は正直疲れました。早い相手に対してどう対応すればいいのか？を学ぼうと思い試合に望みました。スピードに乗らせる前に寄せてボールを取るか、前を向かせないように心がけました。そして、一番学んだのがルールです。最初の試合の時に自分がふざけた事をしたので替えられました。それは、自分基準でサッカーをしていたからです。監督に言われた『やるべき事をやれば良い』と言う事を学びました。

最後に、フランスへ行く事に関与してくれた人に感謝したいと思います。